

オルガノン要約 § 266～272

§ 266 動物や植物からレメディを作る場合は未加工のものが最も効力を発揮する。

(1) 植物は調理すれば毒性を失う（これを調理という）。

(2) 動物由来のものは塩や酢で毒性を失わせるが、その代わり塩や酢の毒性を受け取る。

どんなに効力の強い植物でも加工することによってその効果はほとんど失われる。

§ 267 植物由来のレメディの作り方（原文参照）

§ 268 粉末状態にしてある原材料を、そのまま嚥呑みに信じてはならない。

(1) いつまでも腐敗しない、効力を失わない粉末の作り方。（原文参照）

§ 269 ダイナミックにポータンタイズ（震盪）することによって、原材料から内的な治癒力を取り出す。

（注）ポータンタイズとは物質内部に隠された特殊な治癒力を生み出し、促進させ、開示することであり、単に薄めることではない。

§ 270 現物質からレメディを作る方法（ポータンタイズ）

A) 1 グラムの原物質（1 滴の水銀など）を 100 グラムの乳糖と混ぜ、乳鉢ですりつぶし原物質が 100 倍に希釈された粉末を作る。

B) A を 3 回くりかえし、原物質が 100 万倍（ $100 \times 100 \times 100$ ）に希釈された乳糖の粉末を作る。これがスタートライン。

C) A～B で作った粉末から 1 グラムとりだし、500 滴のアルコール水（蒸留酒 100 滴:蒸留水 400 滴）に溶かす。（500 倍）

D) C の 1 滴を 100 滴の強いアルコールに溶かし、100 回強く震盪する。（ $500 \times 100 = 5$ 万倍希釈＝LM1）

E) D でできた溶液を数粒の乳糖に染みこませ、吸い取り紙で乾燥させる。

F) E で作ったものを 1 粒取り出し、100 滴の強いアルコールに溶かし、強く 100 回震盪する。（5 万倍希釈＝LM2）

G) E～F を 29 回繰り返す、LM30 にする。

特に医薬作用がない物質でも、ポータンタイズされることによって「精神のような治癒エネルギー」

ギー」に変わる。

砂糖玉は乾燥しているよりも水に溶けている方が担体としての力が増す。

(注 1) 原物質 1 グランを 100 グランの乳糖に 1 時間かけてすりつぶす方法。(100 倍)

これを 3 回繰り返す。(100 倍×100 倍×100 倍=100 万倍)

すりつぶすには 3 時間 (1 時間×3) 必要。

これをポータンタイズのスタートラインとする。

(注 2) C では、溶液が 3 分の 2 を満たす程度の大きさの容器を用いる。

(注 3) D の震盪には皮革で製本された本などを用いる。

(注 4) E の乳糖の顆粒は 100 粒で 1 グランの重さになるよう、菓子職人に作ってもらう。

(注 5) E で乳糖に染みこませる際には、小さな円筒形の入れ物を使う。

(注 6) F において、1 粒を 100 滴のアルコールに溶かすなら、それは 5 万倍希釈となる。(D の溶液 1 滴は乳糖 500 粒を湿らす量だから)

オルガノン第 5 版で書いた 100 倍希釈よりも、5 万倍希釈の方が最高の効力を発揮し、最も穏やかである。

急性でも慢性でも、低いポテンシーから始めるべきである。必要なら程度の高いものに移行していくこと。

(注) ほぼ完全に回復し元気なのに、古くて重い局所症状がある時は、効果の認められているレメディの投与量を増やすと同時にポテンシーを絶対に上げていくべきである。

(注 7) LM30 をさらに 3 回 5 万倍希釈したものでも作用するが、天文学的に希釈されることで、物質は精神のような本質そのものになる。粗野な物質は、展開されていない精神のような本質を内在させているものに他ならない。

§ 271 医師は当然自分でレメディを調製しなければならない。

(注) 国家がレメディを製造し、ホメオパスは国家に身分を保証され、無料で診察するような日が来るまでそれをやり続けること。

§ 272 砂糖の粒を舌に置くのは、軽い症例に対してするやり方である。粒はいくらかの乳糖とすりつぶし、水に溶かして震盪させるとはるかに強いレメディとなる。

(注) こういう粒は、保管が良ければ、何年も治癒力を維持する。